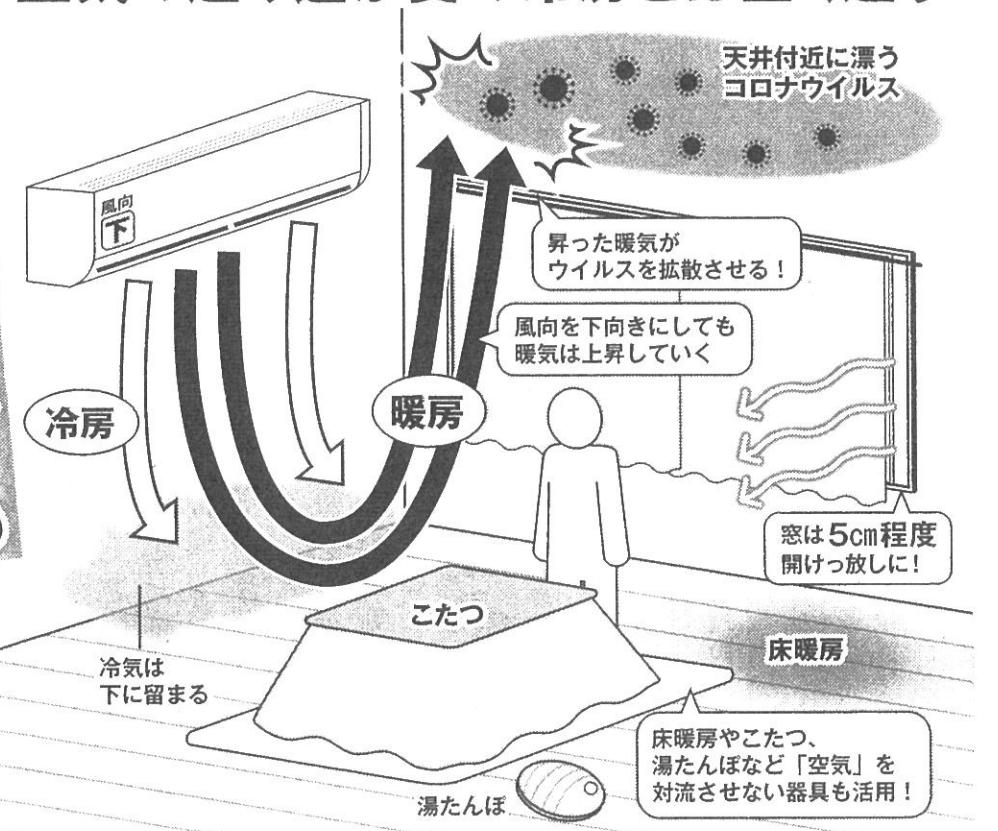


天井の飛沫核が温風で拡散、湿度低下でウイルスが活性化――

その『暖房の使い方』で 冬コロナに感染する!

**旅行・外食を減らしても
こんなに危ない自宅と職場！**

空気の通り道が夏の冷房とは全く違う!



ミュレーション代表取締役の阪田升氏が解説する「小さく軽い飛沫核は屋内の天井付近に滞留する」

傾向があります。冷気は下方に流れ、留まる性質があるので、夏場の冷房は風向きを『下』に設定

床暖房やこたつ、湯たんぽなど「空気」を対流させない器具も活用！

すれば天井付近の飛沫核に影響は出ませんが、暖房は違う。暖気は上昇していく性質があり、風向を下にしても飛沫核にぶつかり、室内に拡散させてしまうのです」

暖房は室内の湿度を低下させるため空気が乾燥し、ウイルスの活性化を招くという悪循環も生じる。

湯たん
そこで「換気」
が重要になるが
実は多くの家庭
用エアコンは室
内の空気を循環
させているだけ
で換気機能は備
わっていない。
厚生労働省は
6月に発表した
資料で、理想的
な換気の方法に
ついて「30分に1回以上
数分間窓を全開」「複数
の窓があれば2方向を開

第3波が広がる北海道は本州以南を先取りした状況といえる。渡航医学が専門の勝田吉彰・関西福祉大学教授はこう指摘する。

「空気が乾燥する冬場は喉の粘膜の働きが弱まりウイルスが体内に侵入し

新型コロナの主な感染経路である「空気感染」は、エアコンによつても生じる。特に直径5μ（マイクロメートル）以下の小さな飛沫核（エアロゾル）は、エアコンによつて室

内に拡散することが判明している。

しかも、冬の「暖房」は「冷房」よりもリスクが高くなる。

飛沫核の拡散などを解析する民間企業・環境シ

北海道は、前触れ!!

冬の到来に合わせるように、新型コロナの「第3波」がやってきた。感染防止のために外出を控え、「自宅で過ごそう」と考える人も増えるだろう。しかし、室内の寒さを和らげる「暖房」が、使い方によつては「冬」「コロナ」感染を招く原因になるという。

11月以降、各地で連日のように新規感染者数が過去最多を更新し、対策

やすくなります。空気中の湿度が低いと、ウイルスにとつて生存に適しません。

南北半球のオーストラリアでは今年7～8月に冬を迎えていた。スキー場は閉鎖され、州境も封鎖。寒い南部ほど感染状況は悪化

様々なウイルスに感染しやすいのです」

